

学校教育目標：豊かな心を持ち、創造力に富む、心身ともに健康な生徒の育成

～みんなちがって みんないい～ ～人のために役立つ人間になろう～



学校だより **ちぐさだい** 第11号

千葉市立千草台中学校

令和6年3月25日

『第58回卒業証書授与式』

校長 白木 建二

3月8日(金)に第58回卒業証書授与式を挙行了しました。朝から大粒の雪が舞い、寒さ厳しい中でしたが、卒業生が下校するころには、温かな春の日差しが感じられ、まるで卒業式を祝ってくれているかのようでした。

本年度は、入場の制限なくご来賓・地域の皆様にもご参列いただき、在校生も参加し、卒業生を送ることができました。「卒業証書授与」では、一人ひとりが担任の呼名に大きな返事で応え、「校歌」「送別の歌(旅立ちの日に)」「卒業の歌(群青)」の心のこもった歌声が体育館いっぱいに響きわたり、すばらしい卒業式となりました。

以下、「校長式辞」「送辞」「答辞」の全文を紹介させていただきます。

校長式辞

花の香り漂う、春の息吹を感じさせる今日の良き日に、ご来賓の皆様、並びに保護者の皆様のご列席を賜り、ここに「第58回卒業証書授与式」を盛大に挙行できますことを、心からうれしく思います。

卒業生の皆さん、中学校ご卒業おめでとうございます。心からお祝い申し上げます。

今、一人ひとりに手渡した卒業証書は、中学校の全課程を修了したということだけではなく、同時に、九年間の「義務教育」を終えることの証明でもあります。そして、証書の最後に記載されている番号はあなただけの番号です。第一回の卒業生からずっとつながっている番号です。今日、あなたは五八年の伝統を紡ぐ一人となりました。「私は千草台中学校の卒業生だ。」と胸を張って言える人生を歩んでください。

さて、皆さんはこの三年間、何を思いながら、何を考えながら、そして何に悩みながら、千草台中学校の校門をくぐったのでしょうか。

三年前、入学と同時にまだまだ新型コロナウイルスに翻弄され、多くの制約のある学校生活の中、思い描いた中学校生活とはかけ離れた日々に、不安になったり、落ち込んだり、何故、自分たちばかりと感じたこともあったかもしれません。しかし、そんな困難な状況の中でも、皆さんは、いつも物事を前向きにとらえ、できることに精一杯取り組みました。そして、その困難を見事に乗り越え、千草台中学校の新しい伝統を築いてきました。特に三年生での最後の一年間は中学校生活の思いが強く込められていたのではないのでしょうか。

中でも合唱コンクールはどのクラスも心を一つにして素晴らしい演奏をすることができ、聞く人に大きな感動を与えてくれました。すべてを出し切った甲乙つけがたい演奏でした。結果発表での満面の笑顔はお互いの頑張りを認め合い、切磋琢磨してきた証であったと思います。

授業に日ごろから真剣に向き合う姿、種目を工夫し、新しい時代にふさわしい体育祭を作り上げた創造力、夜のレク大会に全員が出し物を披露した修学旅行でのチームワークとその笑いの渦から生まれた一体感。全員の心が一つになり、どこまでも突き進んでいく力強さと仲間としてのまとまりを感じた瞬間でした。

このような皆さんは、千草台中学校、在校生にとっての「自慢の先輩」であり、私たち教職員の「誇り」でもあります。

いよいよ本校を巣立つ卒業生に未来をどう切り拓いていけばよいか、私から三つのメッセージを贈ります。

一つ目は「失敗を恐れないこと」です。そもそも失敗とは何か。成功するまでやめなければそれは失敗ではなく成功のための過程にすぎません。自ら判断し、行動すること。そして、失敗した人をみんなで応援すること。そうすることで未来は明るく前向きになります。

二つ目は「Why?なぜ?を大切にすること」です。なぜ勉強するのか?なぜ仕事をするのか?なぜその夢はあなたにとって大事なのか?など、今、世界中で最も大切にしていることは「困っている人を助けること」「何が世界の平和になるのか考

え行動すること」「なぜそうなったかを共有すること」です。答えはたとえ出なくても自分と問答してください。相手と何度も対話をしてください。そして、自分の夢を語ってください。

三つめはこれら二つのことを踏まえて社会の変化を見ながら、柔軟性をもって「何度でもチャレンジを続けること」です。「種の起源」を著した、かの有名な「ダーウィン」が言ったように「強いものが生き残るのではない、変化できるものが生き残るのです。」これからの時代は、先行きが不透明で予測が困難な時代であると言われています。だからこそ、「困難に負けない力」、「回復力」、「心のしなやかさ」が必要なのです。

「花意竹情(かいちくじょう)」という中国の宋の時代の詩があります。

「花意(かい)」は、花のように美しく、優しい心という意味があります。人は生活していく中で必ず相手が存在し、すべてのことで人と関わって生きていきます。この関わりの中で、人の心を感じとる優しさがとても大事です。一つの言動にその「花のような優しさ」を添えることで相手を笑顔にし、元気や勇気を与えます。いつも心の中に花を持ち続けてください。

「竹情(ちくじょう)」は竹のようにまっすぐ伸び、しなやかで強い心という意味です。竹は雪が解けるのをじっと待ち、雪が少なくなった時に、残りの雪を吹き飛ばし、グリーンとまっすぐに戻ります。これから大人に向かって成長していく時に、幾多の困難にぶつかってもしなやかに竹のように力強く乗り切ってください。

保護者の皆様、本日はお子様のご卒業、まことにおめでとうございませう。お子様の三年前の初々しい姿を思い出すと、いつのまにか遅くなり、こうして中学校を卒業する感慨もひとしおのことと思います。これまでの本校へのご支援・ご協力に対し、この場をお借りしまして厚くお礼申し上げます。

陰になり、日なたになって子どもたちを支えてくださったご苦労に対して、心より敬意を表するとともに、これからますますのご発展を祈念しております。

結びに、在校生・教職員・保護者、ご来賓並びに地域の方々と共に、卒業生の輝かしい「未来」を祈念して式辞といたします。

送辞

厳しい寒さにじっと耐え忍んできた桜のつぼみもふくらみ始め、気持ちの良い春風と共に、本日大きな夢を抱き、新たな未来へと巣立つ八十五名の卒業生の皆様、ご卒業おめでとうございませう。今、先輩方と過ごした日々を思い出すと共に、月日の流れの早さを感じています。二年前の春、新しく始まる中学校生活に、期待と不安でいっぱいだった私たちを、先輩方は温かく迎えてくださいました。わからないことがあると、すぐにやさしくわかりやすく教えてくださる先輩方の存在は、とても心強く、その大きな背中に包み込まれ、安心したことを今でもはっきりと覚えています。入学前から中学校生活のあこがれでもあった部活動では、部長をはじめ先輩方が、部を引っ張ってくださったおかげで、毎日とても楽しく、充実した日々を送ることができました。試合で悔しい思いをしていた私に、「次があるから、もっと練習を頑張ろう」と声をかけ、励ましてくださった先輩の言葉を胸に刻み、苦しいときには何度も思い出し、どんな困難も乗り越えることができました。新緑が輝き、晴れ渡る空の下で行われた体育祭。今年のスローガンは「限界突破」でした。先輩方の最後の体育祭にかける特別に思いは、私たちも強く感じることができました。力強く躍動するソーラン節、競技の一つ一つに真剣に取り組み姿に熱い思いを感じました。実行委員として、種目の内容に行き詰まっていた私に的確なアドバイスをくださったのも先輩でした。そのアドバイスのおかげで、学年種目も成功させることができました。芸術の秋。四季の色合いが変わる季節の合唱コンクール。音楽室から聞こえてくる先輩方の歌声に、ただただ圧倒されました。授業に集中しなければならないのに、先輩方の合唱に耳を傾けている自分がいました。歌っているときの表情、練習に熱心に打ち込む姿勢、「先輩」としてあるべき姿を、私たちに示してくださいました。そして迎えた本番、ホールに響き渡る迫力のある声量と、そのハーモニーの美しさに、心動かされました。あの日の感動は、今でも目に焼き付いています。私たちも来年は、先輩方のように、後輩たちの胸を打つような、素敵な合唱をつくりあげたいと強く思いました。委員会活動では、先輩方が常に活動の中心となり、私たちを導いてくださいました。リーダーシップをとるその姿は、とても輝いていました。委員会の仕事は、大変なことがたくさんあったと思いますが、どんなことが起きても、大変さを表に出さず、臨機応変に対応する柔軟さを持ち、てきぱきと仕事をこなしていく先輩方の姿は私たちの目標でした。様々な場面で、私たちの憧れで、お手本で、そして支えであった先輩、明日からはもう頼ることはできません。私たちはまだまだ未熟で、千草台中学校を引っ張っていけるか不安です。しかし、先輩が築き上げてくださった伝統をしっかりと引き継ぎ、より良い学校にしていけるよう全力を尽くします。これから先輩方は、中学校生活を共に歩んできた仲間とは、別々の道へと進むことになり、新たな生活に不安を抱いていらっしゃるかもしれません。でも先輩方ならきっと、自分自身の道を力強く切り拓いていけると信じています。これから新たな道へと歩まれる先輩方のご活躍、そして輝かしい未来を、心よりお祈り申し上げます。送別の言葉とさせていただきます。

令和六年 三月八日 在校生代表

答辞

仲間と生活した日々はあっという間に過ぎ、小学校の入学式と同じく雪が降る中、私達は中学校生活最後の日を迎えました。「暖かい春の風が吹く中、新しい制服に身を包み、私達は今日、千草台中学校に入学しました」入学式で話した言葉がつい最近のように感じます。千草台中学校で過ごした三年間を振り返ると、たくさんの事があり、長くも短くも感じられました。三年前の四月、私達は新しい環境に緊張しながら入学式を迎えました。小学校とほぼ変わらないクラスメイトの顔を見て、とても安心しました。これからの学校生活に期待と不安を感じながらも、毎日元気に登校したのを覚えています。五月に予定されていた校外学習は、コロナの影響で延期となり、十月にマザー牧場へ行きました。自分達で係の分担や班活動の計画を行い、自由に廻って楽しむことができました。五月に咲く花を見る計画だったので、班員と残念に思いながら見た何も無い花畑が、とても印象に残っています。同じく十月に行われた体育祭では、初めて三色対抗での開催となり、特にクラスごとに練習した長縄跳びはとても盛り上がりました。この体育祭を通して、仲間と協力することの大切さと、一生懸命取り組むことの楽しさを学んで気がします。三月には三年生を送る会があり、お世話になった先輩方に感謝の気持ちを伝えました。複数のグループをつくり、それぞれのグループが劇やお笑い、ダンスなど、自分達で考えた出し物を発表しました。先輩方に面白かったと言ってもらい、メッセージカードをもらったときは、とても嬉しかったです。二年生になると、今度は先輩として、後輩を教える立場となり、部活動や委員会活動で、積極的に行動するようになりました。初めは、教え方に戸惑い、悩むこともありましたが、後輩の明るさと仲間に支えられながら、乗り越えることができました。二年生最初の定期テストでは、一年生の時にはあまり無かったライバル意識が芽生え、点数を競いながらも、切磋琢磨して勉強に励むようになりました。休み時間を使って、問題を出し合ったことが思い出に残っています。十月には、一年生の時に出来なかった、合唱コンクールがありました。昼休みや放課後の時間を使って、クラスで丸となって、練習していましたが、時には不安を感じたり、目指している合唱に届かないことへの悔しさやもどかしさを、感じたりすることもありました。しかし、最後まで諦めずに練習を続け、本番では全力を出し切ることができました。一月から二月にかけて行った自然教室では、那須甲子でスキー学習を楽しみました。初めてのスキーは上手にできず、何度も転びましたが、今ではそのことも良い思い出です。三年生になり、五月に修学旅行で福島県に行きました。出発前に動けなくなったバスは、今でも忘れられません。神秘的な景色に圧倒されたあぶくま洞。会津の歴史を学んだ鶴ヶ城、野口英世記念館。皆で食べた海鮮丼や餃子。練習してきたものを発表して、盛り上がったレク大会。仲間と共に過ごしたこの三日間は、全てがかけがいのない思い出となりました。夏には総合体育大会やコンクールがありました。様々な結果にはなりましたが、最後まで部活動を楽しみ、諦めずに挑戦し続けることができたと思います。後期に入ると、千草台中学校にマスコットキャラクターが誕生しました。生徒会室で何気なく描いた「なのっち」と「がんペンくん」は現在、生徒会新聞などで登場しています。これから先何年も愛されるキャラクターでいてほしいです。全ての行事が終わると、私達は受験にむけて準備をするようになりました。勉強だけでなく、高校までの行き方や出願の仕方、当日の持ち物など、不安になる要素がいくつもありました。それでも、私達は敵ではなく仲間として、チームとして互いに支え合い、高め合いながら、受験に臨むことができました。緊張や不安に押しつぶされそうな時、教室で普段と変わらず元気に過ごす仲間の存在が、とても心強かったです。千草台中学校での三年間は、長いようで短く、一瞬のうちに過ぎていきました。私達は、この学校でたくさんのことを学び、笑い合い、喜び合い、時には叱られ、かけがいのない日々が今、私の中でゆっくりと思い出されます。そんな学校生活を支え、見守ってくださった先生方、今までありがとうございました。先生方には数えきれないほど、迷惑をかけてきました。それでも、いつも私達のことを考え、指導してくださいました。また、部活動や委員会活動では、常に私達を支え、やりたいことを形にしてくださいました。千草台中学校で培った力で、これから先、どんな壁が立ちかはだかろうとも、必ず乗り越えてみせます。地域の方々、交通パトロールやちぐさ寺子屋などを通して、いつも私達を温かく見守ってくださいました。本当にありがとうございました。そして在校生の皆さん、中学校三年間はあっという間です。一日一日を大切に過ごし、何事にも挑戦して、この千草台中学校を創造し続けてください。応援しています。常に私達のことを、一番気にかけてくれたお父さん、お母さん、そして保護者の皆様、入試などで不安なことがあると、不機嫌な態度を取ってしまうことがありました。それでも、私達に寄り添い、本音をぶつけ合える味方でい続けてくださいました。今まで私達を、温かく見守ってください、ありがとうございました。千草台中学校で過ごした三年間は、一生の宝物です。嬉しかったこと、楽しかったこと、悔しかったこと、悲しかったこと、その全てが大切な思い出となり、私達を支えてくれます。中学校での生活は、もう終わってしまいますが、ここで仲間と紡いだ絆は永遠です。「みんなこれからもよろしく。またいつか。」皆さん、本当にありがとうございました。

令和六年 三月八日 卒業生代表

【ちぐさ寺子屋閉校式】

2月22日(木)、今年度最後のちぐさ寺子屋を実施しました。3年生は公立高校入学者選抜の翌日ということもあり12年生のみの受講となりましたが、多くの生徒が参加し盛況のうちに終えることができました。また、ちぐさ寺子屋終了後に閉校式を実施し、ご指導をいただきました地域ボランティアや千葉経済大学附属高等学校の方からご講評をいただきました。ちぐさ寺子屋は学力向上のほか、受験を経験した高校生や教員以外の方からの経験談を聞くことで考え方の幅を広げる貴重な時間となっています。次年度もご協力よろしくお願いします。

【3年生を送る会 3月1日(金)】

昨年度は、全学年が集まれずに一部オンライン配信による実施となっておりますでしたが、今年度は久しぶりに全学年が体育館に集まって実施することができました。吹奏楽部の生演奏による入退場や1年生のマスゲーム・ボディパーカッション・ストンプや合唱、2年生の小気味よいテンポで行われた卒業生の3年間を振り返る寸劇、5組の映像を交えたニュース番組風の発表などどの学年学級も工夫を凝らした素晴らしい発表で、3年生にとって中学校生活最後の良い思い出となりました。

【第58回卒業証書授与式 3月8日(金)】

当日は雪の降る極寒の朝でしたが、式が終わるころには雨もやみ天候も卒業を祝福しているようでした。式は、コロナウィルス感染症の5類感染症移行に伴い今までのような制限がなくなったため、来賓の方にも出席していただき盛大に式を執り行うことができました。卒業生の入退場や礼法の態度・歌や証書の呼名・歌や答辞の一つ一つから、3年間の成長やこれからの生活に大きな期待を感じることもできる素晴らしい式でした。卒業生のみなさん、卒業おめでとうございます。皆さんの今後のますますの活躍を期待しています。また、卒業式に立派な態度で参加した12年生にこれからの千草台中学校をより良い学校にしてくれることを期待しています。

【4月の予定】

5(金) 着任式・始業式
8(月) 入学式
9(火) 新入生歓迎会
11(木) 避難訓練
16(火) 市教研 完全下校
17(水) 自宅確認期間(～23日(火)まで)
18(木) 全国学力学習状況調査
27(土) 授業参観、学級・学年懇談会
30(火) 振替休業

【5月の予定】

2(木) 生徒総会
8(水) 眼科健診1年(23年は抽出生徒のみ)
14(火) 内科健診2年
21(火) 市教研 完全下校
25(土) 体育祭(お弁当の日)
30(木) ちぐさ寺子屋開校式
31(金) 耳鼻科検診2年
※体育祭25日(土)が雨天中止の場合、26日(日)に実施予定です。
26日(日)も雨天中止の場合、28日(火)に実施予定です。